



脈が飛んだら

よく起る場合はご注意ください

「何となく胸がおかしい」「脈をみると、時々欠けている」「胸に手を当ててみると心臓が止まっているようだ」などとあわてて病院にこられる方がおられます。これらの脈の飛び(結滞)の多くは期外収縮という不整脈により起こります。心臓は自分で電気を作り、それを心臓全体に伝えることで動く仕組みになっています。電気を作る本来の発電所は、洞結節といって心臓の上の方にあります。別の場所にも発電所があつて、時々そこから電気が流れる現象を期外収縮というのです。それらは洞結節からくる電気信号よりも、少し早いタイミングで出てきますので、その際の心臓の動きは不十分なものとなつて、脈も弱くなるため、それを触れたり感じたりすることができなくなるのです。つまり、その時には心臓が止まっ

ているのではなく、弱く心臓が動いているのです。このような期外収縮は20歳を越えるとしつづつ見られるのですが、年齢とともに増加して、50歳を越えるとはほぼ全員に、1日あたり数個〜数百個くらい見られます。多くの人はこれらを感じないのですが、それ以上期外収縮が出てくると、どきつとする、きゅつと胸が痛い、のどや胸がつまるなどの症状を自覚するようになります。一方、脈の飛びとともにふつとすると、意識が遠のく場合は期外収縮ではなくて、本当に心臓が止まっていることがあります。脈の飛びの多くは心臓病とは関係ありませんが、症状の強い人、あるいは数が多いか出ている人は、元来病気がないかを調べてもらう方がいいでしょう。

吹田市医師会

鎌倉かまくら

史郎しろう